

## 令和5年度 校長だより 第5号

## 1 夏休み

1学期終業式で、「成果はどのように現れるのか。」というお話をさせてもらいました。努力を続けていても、手応えが感じられず、手前で諦めてしまう人がなんと多いことか。

一生懸命努力しても、しばらくの間は、ずーっと低空飛行の状態が続きます。例えば、冷たい水を火にかけてお湯を沸かすとき、徐々に温度が上がっても、ほとんど変化はみられませんが、あるとき急にボコボコと沸騰し始めるのです。

夏休み、地道に「微差」を積み重ねていきながら、目標に向かって行動してみてください。成果が現れ、きっと「未見の我」と出会えるはずです。



## 2 「根を張れば 高く伸びる」

1学期終業式での講話の内容に関連して、本に書かれていた内容の一部を紹介したいと思います。

「モウソウチク」という竹があります。この竹は、種を蒔いてたっぷり水をやり、いくら丹精込めて育てても芽を出しません。ひたすらじっと、静かに過ごします。そうして5年ほどたったある日、突如として芽を出し、すくすくと育ち始めます。1日に80センチずつ、ぐんぐんと伸びていきます。高さ30メートルになるまで止まることを知りません。30メートルといえば、男性18人分の伸長を足した高さです。

「天を突くほど高く伸びて、倒れてしまわないだろうか」。頼りない竹の茎を見て心配した人々は、モウソウチクの根を掘ってみました。そして、いらぬ心配をしたことに気付いたのです。モウソウチクの根は四方八方にからまり合い、地の奥深くにまで埋まっていたのです。その長さを合計すると、実に4000メートルもありました。モウソウチクは5年の間、土の中でただじっと閉じこもっていたわけではなかったのです。地面の奥深くへと掘り進み、時が来るのを待ちながら準備をしていたわけです。

「力を蓄えろ。もっと深く。燃える太陽に向かって高く伸びていく日のために。そして、最後に奇跡を作り出すんだ！」

ただ深い穴を掘り、力を蓄えるだけの日々は、確かに退屈でしょう。一寸先も見えない洞窟の中に独り閉じ込められたような気分になるかもしれません。ですが、地中にしっかり張り巡らされた根の力がなければ、決して空高く伸びることはできません。もし高く伸びても、「深い根」がなければ簡単に風に揺さぶられ、倒れてしまうでしょう。高く伸びる力は、伸びていくうちに付くものではないのです。土の力と水の力を自分の体に引き込む「根っこの時期」にこそ、人生の嵐に襲われてもびくともしない、強い力が生まれるのですから。いま、この瞬間は、人生における「根っこの時期」です。じっと耐え抜くべき根っこの時期を、焦ることなく、力が十分につくまでもうしばらく待ってください。

深く土を掘れば掘るほど、根をもっと張れば張るほど、あなたはもっと高く伸びるはずです。驚くくらい高く。

パク・ソンヒョク著 吉川 南 訳『勉強が面白くなる瞬間』から)

「『可能性の扉を開く鍵』がきっと見つかる」 ☆科学技術高校☆